

2005年5月15日 聖霊降臨節第1主日礼拝

『神様からの贈り物』

(詩編 51 編 18~19、使徒言行録 2 章 29~39)

イエスが、天に挙げられて十日後、それは五旬祭の日でした。ある家に、使徒達やイエスを信じる兄弟姉妹達が集まっていました。突然、激しい風が吹いてくる様な音が聞こえ、一同は聖霊に満たされました。この時、あらゆる国の言葉で神の言葉が語られたのです。エルサレムには、神を礼拝するために、あらゆる国から信心深いユダヤ人達が集まっていました。この出来事を見て、皆驚きました。この人達は、酒に酔っていると悪口を言う人たちもありました。そこでペトロと他の十一人の使徒は、立ち上がり話し始めたのです。今日読まれたのは、ペンテコステの日に語られた教会最初の説教です。この人たちは酒に酔っているのではなく、これこそ預言者ヨエルを通していわれていた神の言葉が実現したのです。「神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。...わたしの僕やはしたためにも、その時にはわたしの霊を注ぐ。」(使徒 2 章 17 節)。この言葉は、今実現したのです。ペトロは説教をこのように始めたのです。そして説教は、預言者の言葉から始まって、イエス・キリストの事を語っていきます。「ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です」(使徒 2 章 22 節)と。そしてダビデもこのイエスの事を証言していたのです。「兄弟たち、先祖ダビデについては、彼は死んで葬られ、その墓は今でもわたしたちのところにあると、はっきり言えます」。ダビデは、イスラエルの王の中で最も尊敬された王、神に忠実な人でした。それゆえダビデは、神から約束を受けました。「あなたが生涯を終え、先祖と共に眠る時、あなたの身から出る子孫に跡を継がせ、その王国を揺るぎないものとする」(サムエル下 7 章 12 節)。このダビデの体は、今も墓の中です。その墓のありかを、ユダヤ人たちは皆知っていました。ダビデが受けた約束の人が、イエスだったのです。イエスは、人類の罪を償うために、神に遣わされ世に降ってこられたのです。イエスを、神は陰府に捨て置かれず、復活させられました。神は、復活されたイエス・キリストを、ご自分の右の座に着かせたのです。キリストの昇天です。

「それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今このことを見聞きしているのです」(2 章 33)。キリストは、父から受けた聖霊を注いでくださっているのです。

このイエスが生まれて来たとき、世の人々は決してイエスを歓迎しませんでした。人々は皆、自分たちのことで忙しくしていました。それで母マリアと父ヨセフは、生まれたばかりのイエスを飼い葉桶に布で来るんで寝かせたといひます。このイエスは、生涯の終わりに、人々に捨てられ十字架につけられたのです。

「あなた方が、十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、メシアとなさったのです」。このようにペトロは、説教を締め括りました。これを聞いていた人々は、心を刺されました。イエスが十字架にかけられ、すでに五十日余りが経っています。五十日といえば、日

本では喪が明けるときです。イエスの十字架にまつわる出来事は、忘れ去られようとしていました。不正な裁判によってイエスに死刑判決がくだったことも。十字架に至るあの痛ましい姿も、人々は記憶の彼方に追いやろうとしていました。そんな時、ペトロの説教によって記憶が呼び覚まされました。自分たちの罪を知ったのです。神がお遣わしになったイエスを、何の罪もない方を、皆が死に追いやった。その事実を人々は忘れようとしていました。けれどもそれは決して忘れてはいけないことです。キリストの十字架によって、わたしたちは自分の罪を知らされるからです。

人々は、ペトロと他の11人の使徒達に尋ねました。37節「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」。自分たちの罪深さを悲しみ、一体どうすればよいのか教えて欲しいと、ひたすら願ったのです。この悲しみは、救いに至るために必要な悲しみです。

ペトロは、この人々に言いました。「悔い改めなさい、めいめいイエス・キリストの名によってバプテスマを受け、(自分の)罪を赦していただきなさい」。悔い改めは、単なる反省ではありません。自分を責めて何もかもやる気をなくし、投げ出してしまう事でもありません。自分を責めてすべてに投げやりになってしまうことは、悔い改めではなく自暴自棄です。悔い改めるとは、自分の罪を深く悲しみながらも、神に立ち帰っていくことです。キリストと共に古い自分に死んで、キリストによって新しい人へと造り変えて頂くことです。本当の悔い改めは、イエス・キリストなしには決して出来ません。ですから本当の悔い改めの第一歩は、洗礼を受けること、すなわちキリストに結ばれることから始まります。

38節「めいめい、イエス・キリストの名によって、洗礼を受け罪を赦していただきなさい」。わたしたちは、キリストに結ばれるために、キリストに結ばれて罪を赦していただくために、洗礼を受けました。キリストの体として、地上に立てられた教会を通して、キリストに結ばれる洗礼を受けました。主イエス・キリストの名のもとで、わたしたちは罪の支配から解放されて、キリストと共に生きように変えていただくのです。人が罪を赦されて救われるのは、このイエス・キリストの名による他ありえないのです。イエス・キリストの名は、確かに名前だけではありません。キリストは、神の力で復活させられて、神の右の座におられ、わたしたちのために執り成して罪を赦してくださいます。御言葉と聖霊を通して、今も主イエスは、わたしたちが神のもとに立ち帰る様に導いておられます。教会は、キリストによる罪の赦しを人々に告げる共同体です。イエス・キリストに結ばれて、罪を赦していただいたわたしたちは、まだ主を知らない人たちに呼びかけ、祈り、仕えて行くのです。ペンテコステの日、使徒達が人々に呼びかけたように。「イエス・キリストの名によって罪を赦していただきなさい」と。わたしたちも、救い主イエス・キリストを宣べ伝え、罪を赦していただくように勧めるのです。

38節「そうすれば、賜物として聖霊を受けます」。心からイエスを救い主と信じ、口でイエスを告白する人に、神は喜んで聖霊を与えてくださいます。これは、とても特別なことです。当たり前のことではありません。わたしたちは、神に反逆する者でした。神が遣わ

した、罪のない方を殺したのです。本当なら神様から何かいただく資格などありません。けれども、神はわたしたちに聖霊を与えてくださるのです。主イエスが、わたしたちに代わって罪を償ってくださったからです。そればかりか、イエスが十字架の上で果たされた償い、義しさを、神はわたしたちのものとして与えてくださいました。罪の赦しと聖霊は、今も、キリストを通して無償で、わたしたちに与えられるのです。神は、このように恵み深い方なのです。

「約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました」(使徒2章33)。そして今もイエスは、御自分を信じる者たちに、聖霊を豊かに注いでくださっています。この聖霊によってわたしたちは、神様への感謝の実を結んで行くのです。聖霊の約束は、多くの人々に開かれたものです。聖霊が、わたしたちに本当の悔い改めをさせてくださる方です。聖霊は、神様からの贈り物です。

39節「この約束は、あなた方にも、あなた方の子どもにも、遠くにいるすべての人にも、つまり、あなた方の神である主が招いてくださるものなら誰にでも与えられるものなのです。主が招いてくださったから、わたしたちはイエスを救い主と信じることができました。この約束の聖霊は、主が招いている人なら誰にでも備えられています。今は神から遠く離れているように見える人々をも、主が招き続けておられます。神は、人の心の及ばぬところも見ておられるのです。

使徒ペトロが語ったイエス・キリストの福音の説教によって、人々は神に立ち帰り、キリストを信じました。その日3000人の人々が、キリストの名を信じて、約束された聖霊を受けたのです。聖霊によって、人は古いい自分に死に新しくされるのです。「だから、キリストと結ばれる人は新しく創造されたものなのです」(コリント二5章17)。神が罪深いわたしをも、新しく正しいものに造り変えてくださる。ダビデは新しく確かな霊を授けて下さるように神に願いました。わたしたちは今ダビデの求めた聖霊を受けています。神は、聖霊によって、わたしを新しくし正しい者へと造り変えて下さいます。わたしを新しく造り変えてくださる神を受け入れること、それが本当の悔い改めです。わたしたちの内において働いてくださる神の聖霊を信じて、聖霊に身を委ねて行きましょう。

[説教者：堀地敦子牧師]